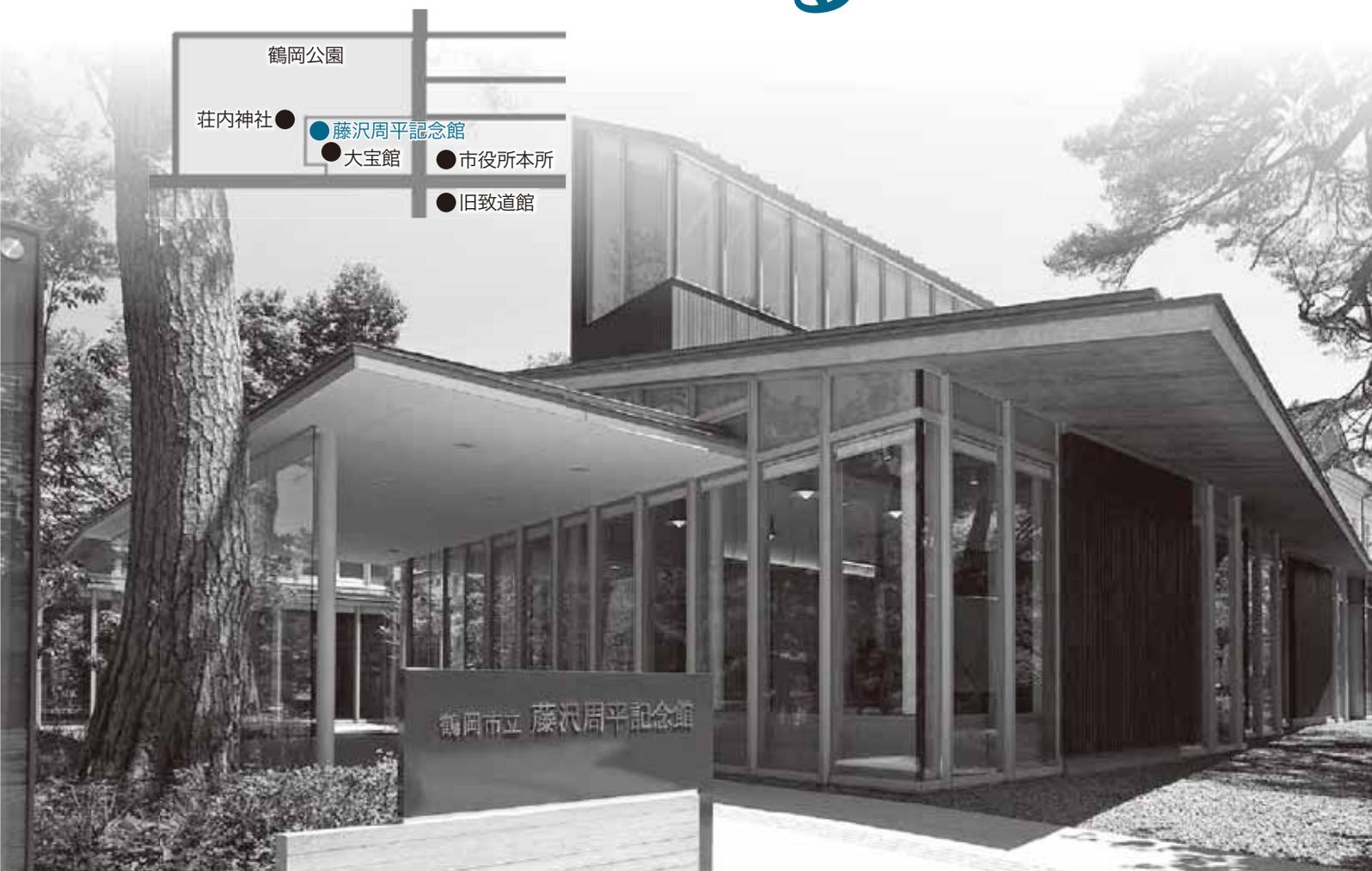


【特集】 — 藤沢周平記念館開館五周年 —

藤沢作品を 故郷の地で 味わい深める

藤沢周平氏

本名小菅留治。昭和2年、黄金村大字高坂（鶴岡市高坂）に生まれました。旧制鶴岡中学校、山形師範学校を卒業し、湯田川村立湯田川中学校へ教師として赴任しますが、2年後に肺結核が見付かり休職。6年間の闘病の後、東京で業界新聞社に勤務します。仕事の傍ら小説を執筆し、昭和46年に『涙い海』でオール讀物新人賞を、昭和48年に『暗殺の年輪』で直木賞を受賞。昭和60年から平成8年まで直木賞選考委員を務めました。『用心棒日月抄』『蟬しぐれ』『たそがれ清兵衛』『三屋清左衛門残日録』『橋ものがたり』『海鳴り』など数々の名作を残します。吉川英治文学賞、菊池寛賞などを受賞、平成7年紫綬褒章受章。平成9年に惜しまれながらこの世を去りました。本市では名誉市民と同等に遇し「顕彰の記」を贈りました。



藤沢周平氏と藤沢周平記念館

日本を代表する時代小説家・藤沢周平氏。江戸時代を舞台に、北国にある海坂藩の下級武士や江戸のまちに暮らす庶民を主人公とした物語を端正な文体で紡いだ作家です。

四回目の候補作『暗殺の年輪』で直木賞を受賞したときは四十五歳でした。その後も、精力的に執筆活動を続け、二十余年の作家生活のなかで、長編と短編を合わせて三百を超える作品を残しました。

また、故郷をこよなく愛した作家として知られ、鶴岡や庄内の歴史や文化、自然の豊かさなど故郷へ寄せる思いを

エッセーに記しました。故郷に関連するエッセーは約七十に及ぶといわれています。

藤沢作品は映画やテレビでたびたび映像化され、宝塚の演劇の原作にも採用されました。近年は、英語、中国語、韓国語、ロシア語に翻訳され、国内だけでなく世界へ向けて藤沢作品が紹介され、国内外を問わず幅広い年代に支持されています。

藤沢氏を育んだ土壌と作品の面影に触れようと多くの方々が本市を訪れていることから、平成二十二年に、藤沢作品を味わい深める拠点「鶴岡市立藤

沢周平記念館」が、ご遺族をはじめ多くの関係者の協力をいただきながら、鶴岡公園内に開館しました。記念館では藤沢氏の作品世界と生涯を紹介するため、自筆原稿や創作資料、愛用品を展示し、多くの作品を執筆した書齋を移築再現しています。また、作品やテーマに焦点を当てた企画展や特別展示、講演会や朗読会を行い、これまで二十万人を超える来館者を迎えました。

四月二十九日に記念館は開館五周年を迎えます。今回の特集では、五年間の歩みと五周年記念特別企画展について紹介します。

メッセージ



遠藤展子氏

藤沢周平氏長女・藤沢周平記念館監修者

― 五周年を迎えて ―

藤沢周平記念館が開館してから、あつという間の五年間でした。何よりも榎本市長の温かいお気持ちに支えられての五年間だったと今振り返っています。

開館当初は全てが手探りの状態でした。運営委員の先生方など多くの方々にご協力していただきながら、お蔭^{かげ}様で今は年二回の企画展や朗読会、講演会も定着し、県外からも多くのお客様に

来ていただいています。遠方のお客様からお手紙を頂いた時など、嬉しくなり「これからもがんばろうね」と夫と話をしています。記念館の職員も館長をはじめ皆、日々コツコツ頑張ってくれています。日々コツコツは父の仕事の姿勢に繋がるものです。

記念館に関わる全ての方に感謝しつつ、これからも市民の皆様にご喜んでもいただける記念館になるよう遺族一同、努力して参ります。これからもどうぞよろしく願います。

■平成22年
4月29日 開館
開館記念特別企画展〈『蟬しぐれ』の世界〉開催

12月3日 第2回企画展〈『春秋山伏記』と庄内〉開催

■平成23年
4月20日 開館1周年記念特別企画展〈『用心棒日月抄』の世界〉開催

5月7日 来館者10万人達成

6月25日 第31回東北建築賞（日本建築学会東北支部）作品賞受賞

11月9日 第4回企画展〈『義民が駆ける』の世界〉開催

■平成24年
5月25日 来館者15万人達成

10月3日 特別展示〈藤沢作品と庄内〉開催
館内に庄内弁朗読CDコーナー設置

12月4日 「藤沢作品に登場する庄内の食」レシピカード作成

■平成25年
7月5日 第5回企画展〈藤沢周平と浮世絵〉開催

10月4日 来館者20万人達成

12月20日 特別展示〈藤沢作品と庄内の食〉開催

■平成26年
4月10日 ポストカードセット2種類販売開始

6月6日 第6回企画展〈『風の果て』の世界〉開催

11月7日 第7回企画展〈藤沢周平と庄内の教学〉開催

■平成27年
4月3日 開館5周年記念特別企画展〈作家藤沢周平の誕生〉開催



■開館セレモニー 映画『花のあと』出演の宮尾俊太郎氏をはじめ関係者によるテープカットを行いました



■開館記念特別企画展〈『蟬しぐれ』の世界〉 企画展や特別展示では特定の作品やテーマを取り上げ、自筆原稿や創作資料、郷土資料を展示しました



■展示特別解説会 第4回企画展の関連イベント。作品の題材・天保の国替え騒動について地元の識者が解説しました



■講演会〈「橋ものがたり」が私の時代の原点だった〉 藤沢作品の文庫表紙画を手掛ける蓬田やすひろ氏と第5回企画展監修者の鈴木文彦氏による講演会



■再現書齋 展示室には、数多くの作品が執筆された書齋を移築再現しました



■朗読会〈『用心棒日月抄』を読む〉 開館1周年記念特別企画展の関連イベント。俳優の篠田三郎氏が作品を朗読しました



■来館者20万人達成 遠藤展子氏から20万人目の来館者へ記念品を贈呈



■館内朗読会 館内サロンを活用した地元劇団員によるミニ朗読会

五年間の取り組み

藤沢作品の魅力を紹介するため、記念館の展示室には常設と企画の各展示コーナーがあります。企画展示コーナーでは『蟬しぐれ』『用心棒日月抄』『風の果て』などの代表作や、「浮世絵」「庄内の食」「庄内の教学」など特定のテーマに関連する作品を取り上げた企画展や特別展示を行いました。企画展等では自筆原稿、執筆の参考として書き込みされた旧蔵書、創作メモをはじめ、関連資料や郷土資料を、一回当たり四十〜五十点展示しています。

また、藤沢作品への親しみや理解を深めてもらうために、藤沢氏にゆかりのある著名な方による講演会や朗読会をはじめ、研究者による文学講座を開きました。

ほかにも気軽に作品を楽しんでもらえるよう、館内朗読会や展示解説を随時行っています。また作品の舞台となった場所をパネルで道案内したり、作品に登場する「赤かぶ漬け」や「ごま豆腐のあんかけ」などの郷土料理レシピを紹介したり、作品の背景に描かれている鶴岡・庄内の歴史や文化に触れることができる活動を進めています。

故郷・鶴岡の先輩である藤沢氏の人となりや作品を学ぼうと、郷土学習の一環として、地元の児童や生徒が記念館に訪れます。次の世代にも作品が読み継がれるよう、分かりやすく解説する学習案内にも取り組んでいます。

作家 藤沢周平の誕生

直木賞受賞を「出発点になった」と語った藤沢周平氏には、その出発点に至るまで、会社勤めの傍ら小説の投稿を続けた修業時代がありました。このたびの企画展では、直木賞の受賞前後を中心に、創作活動の一端をうかがうことができる草稿や創作メモ、旧蔵書を展示し、藤沢氏の作風が確立した昭和51年頃までの作品を紹介します。



直木賞の正賞としてもらった時計



修業時代に投稿した『蒿里曲』の草稿と草稿群

特典 5 周年記念特製しおりプレゼント

開館 5 周年記念特別企画展の開催期間中に、記念館へ来館し、図録や書籍を購入した方にオリジナルのしおりをプレゼントします。※しおりは部数限定です。



予告 同企画展（後期）は海坂藩を取り上げます

藤沢作品の名作『蟬しぐれ』や『隠し剣』シリーズの舞台となっている海坂藩。江戸時代の庄内地方がモデルといわれています。海坂藩の世界に触れる企画展を開催します。

■期間 10月9日（金）～来年3月29日（火）

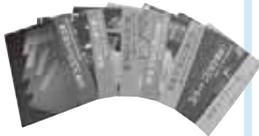
藤沢周平記念館にぜひお越しください

鶴岡公園の四季を感じながら、展示室やサロンでゆっくりと藤沢作品を楽しむことができます。

一 記念館の利用案内

- ◎所在地 市内馬場町 4 番 6 号（鶴岡公園内）
- ◎入館時間 午前 9 時～午後 4 時 30 分
- ◎休館日 水曜日（休日の場合は翌平日）
年末年始
- ◎入館料 大人…320円
高校生・大学生…200円
中学生以下…無料
年間入館券…1,000円

◆企画展図録等 藤沢氏を紹介する図録や企画展図録を発刊しています



◆ポストカードセット 記念館オリジナルポストカードで「藤沢周平の愛用品」と「庄内の原風景」を各 5 枚セットで販売しています

◆サロン 藤沢氏の著作本、関連図書、郷土図書などを自由に読むことができます。また藤沢氏の貴重なインタビュー映像を視聴できます

◆朗読CDコーナー 庄内弁が使われている藤沢作品の朗読を楽しむことができます

◆来館記念スタンプ 藤沢氏が文鎮として愛用していた刀のつばをモチーフとしたスタンプです



ご感想ありがとうございます

館内のアンケートに寄せられた来館者の声の一部を紹介します

書齋がいいですね。藤沢さんの人柄が分かるような気持ちになりました。この場所に持って来られた発想がすばらしいと思いました。建物も大きくなく、控え目に感じました。（新潟県在住、60代男性）

藤沢周平の作品が好きです。特に庄内藩を題材とした小説と、この地域の風土が合っています。主人の故郷ですが、ほっと息の付ける時間を大切にしたいと思います。（神奈川県在住、70代女性）

作品全体のイメージを損ねることのない館内の展示・雰囲気、とてもうれしかったです。作品特集の展示も背景を分かりやすく解説してあるのにネタバレしすぎず、うまいな！と感じ入りました。（茨城県在住、30代女性）

鶴岡の食文化の企画展、大変興味深く楽しかったです。藤沢作品の中での食べ物の扱いを、いつも面白く読んでいます。（神奈川県在住、50代女性）

五周年を迎えて

五周年を迎える今年度の企画展のテーマは「作家 藤沢周平の誕生」と「海坂藩」。いずれも、藤沢氏と作品を語る上で重要なテーマです。企画展の準備を進める中で発見された資料もあり、見応えのある展示を目指しています。

記念館では展示等を通して、小説やエッセーなどを紹介してきましたが、まだ作品の魅力は一端しか触れていません。これからも多彩な作品世界に多くの方が親しめるよう、企画展やイベントを開催していきます。

開館五周年の今年、藤沢周平氏の作品世界を味わい深めるために記念館に出掛けてみませんか。皆様のご来館を心からお待ちしています。

80 ◎問合せ 藤沢周平記念館 ☎ 29・18